

会 議 録

1 会議名

令和6年度第6回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項

- ・ 板倉保養センター（ゑしんの里やすらぎ荘）男女浴室壁面改修工事の施工に伴う臨時休館について（公開）

○その他（公開）

○第3回地域振興部会・第3回健康福祉部会・第3回地域防災部会（公開）

3 開催日時

令和6年12月24日（火）午後6時00分から午後7時30分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・ 委 員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、藤原委員、南委員、山本委員
- ・ 事務局：板倉区総合事務所 内藤次長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、清水教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、金井主任

8 発言の内容（要旨）

【内藤次長】

- ・会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・挨拶

【小林会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。
会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を清水委員に依頼。

【小林会長】

3 報告事項「板倉保養センター（ゑしんの里やすらぎ荘）男女浴室壁面改修工事の施工に伴う臨時休館について」説明をお願いします。

【佐藤産業グループ長】

- ・資料1に基づいて説明。

臨時休館の期間については、指定管理者と協議の上、売り上げに影響の少ない閑散期での実施とした。また、休館の周知は「板倉区だより」ややすらぎ荘のホームページ等で行う。

併せて、資料はないが、日帰り宿泊温泉施設の無償譲渡・無償貸付に係る公募型プロポーザルの結果について報告する。やすらぎ荘は提案がなかったため、民営化せず来年4月以降も市の指定管理施設としての運営を継続することになり、現在、指定管理者の更新作業を進めている。

【小林会長】

何か質問はあるか。

【新井委員】

やすらぎ荘以外の3施設の結果はどうだったのか。

【佐藤産業グループ長】

牧湯の里深山荘は、やすらぎ荘と同様に提案がなかったため、指定管理施設として継続することになった。

くわどり湯ったり村は、うみてらす名立の指定管理者である夢企画名立から提案があり、有識者らでつくる選定委員会が審査した結果、選定された。今後、市との交渉がまとまり、関連議案が来年の市議会3月定例会で可決されれば、令和7年度中に民営化される予定。

「柿崎マリンホテルハマナス」は2社から提案があり、選定委員会が審査したが、2社とも得点の要件を満たさなかったため、「選定事業者なし」という結果になった。来年4月以降も指定管理施設として継続する。

4施設のうち「くわどり湯ったり村」だけが民営化されるということになる。

【小林会長】

5 その他、何かあるか。

【千葉地域振興班長】

次回の地域協議会は、予定どおり1月28日に開催する。部会で取り組むテーマを発表してもらおう。

【小林会長】

他にあるか。

【山本委員】

屋根の雪下ろしを業者に委託する際、アンカーを設置していないと引き受けない業者も増えてきた。総合事務所職員に確認したところ、集落センターなどの町内会集会施設に設置する場合、コミュニティ助成事業やアンカー設置費補助金の対象にはならないとのことだったが、妙高市では助成していると聞く。今後事例が増えてくると思われるので、集会施設も対象とするよう要望したい。

【内藤次長】

担当課に確認するとともに要望を伝える。

【小林会長】

次回の地域協議会で報告をお願いする。

他にあるか。

(なし)

【内藤次長】

これで、第6回板倉区地域協議会を終了する。

引き続き、部会を開催する。

【千葉地域振興班長】

本日は、前回に引き続き、部会で取り組むテーマを話し合ってもらい、次回の地域協議会で発表していただく。

○ 第3回地域振興部会（座長：清水委員）

【中澤委員】

前回の会議では、現在部会で議論しているテーマ「伝統文化の復活（板倉ルネッサンス）」の一環として、旧板倉町時代に制定された「板倉音頭」を様々な場面で流してもらうのはどうかという意見が出された。それに伴い、11月3日に開催された板倉ふれあいまつりの会場内で「板倉音頭」をエンディングで流した。

【山本委員】

板倉ふれあいまつり当日、実際に会場へ行って、エンディングの様子を確認してきた。14時頃の状況であるが、会場内にはまだ多くの来場者がいたものの、コロナ禍前の客層とは違う印象。高齢者が会場内で迷うようなゴチャゴチャした別物のイベントになったと感じた。今の時世にマッチしたまつりの開催内容にしないと駄目だと思った。

会場内に「板倉音頭」を流してもらい、賑やかな雰囲気になった感じがする。司会者が会場内の来場者へ「踊りませんか」とアナウンスで促したため、輪になって踊った来場者が複数いたが、踊る人数が少なかったためか、曲の華やかさとは対照的に寂しさは否めなかった。

【清水座長】

当日突然の呼びかけだったので、来場者からの参加は厳しかったようだ。

【山本委員】

事前宣伝があっても良かったかもしれない。

【中澤委員】

公の会場で「板倉音頭」を流したのは久しぶりではないか。今後、来場者の「巻

き込み方」を検討する必要があると感じた。今回はあくまで、「板倉音頭」を皆さんから思い出してもらうための「入り口」のようなものだと思っている。

【清水座長】

時間制限してもいいから、やすらぎ荘等の公共施設でも曲を流してもらえると、曲を聴いた人の意識付けにつながると思う。引続き、イベントの会場内等で「板倉音頭」を流していくべきだと思う。来年2月に「寺野遊雪まつり」が開催予定なので、主催者から今回同様に流してもらったらどうか。

【植木副会長】

「板倉音頭」を板倉区の防災行政無線で流れる「時報」のアナウンス音源として採用してもよいのではないか。

【清水座長】

どんな場面でもいいので、「板倉音頭」に触れる機会や場면을数多く設けて、足がかりを作るべきだ。

【植木委員】

なんと言っても「板倉音頭」に関わってもらいたい一番の世代は「子供」だと思う。「子供」が参加すれば、両親、そして孫の顔見たさに祖父母などの「大人」も自然に参加することになる。「大人」は恥じらいがあるので、場合によっては「アルコール」が必要な場面があるかもしれない。前回の会議で意見が出された「板倉音頭普及隊」のような組織を立ち上げるのもよい。その組織には各地区の女性から参加いただいて、踊りの着付けも手伝ってもらおう。元気な女性から参加してもらって「女性軍団」で活動するのも面白い。「板倉音頭」は激しい動きがない。適度な運動量だから、子供からお年寄りまで誰でも踊れる。適度な運動の推進は地域住民の「健康年齢」を伸ばす効果が期待できる。

【中澤委員】

組織名は仰々しい名称でなく「踊り隊」のようなシンプルなものでもよいと思う。曲を流すだけなので、コストが掛からないのもよい。来年1月に板倉まちづくり振興会が主催する「賀詞交歓会」でも流そうかと考えている。新しい年の始まりにふさわしいし、会場内が明るく賑やかになる。逆に、最近は高齢者向けのイベントが

年々減っていく傾向を感じる。

どんなイベントでも、人を集めることができるのは「子供」たちだ。自分の故郷、地域を愛する心を育むことは、「子供」の頃からの育成、教育が極めて大切だと認識している。「つなぐ」という観点で見れば、大人よりもむしろ、次世代を担う「子供」たちの方が今後重要視した方がよいと思っている。仮に大人になって板倉を離れ、外に出たとしても、将来的に再び、故郷のよさを思い出して帰ってくることもあるかもしれない。板倉が戻ってきたいと思う地域として、皆んなから愛される場所になってほしい。「子供」たち、彼らこそが、まさにメッセンジャーではないかと思う。

【清水座長】

同感である。「子供」が主役であるのは間違いない。板倉ふれあいまつりの会場を見た印象だが、元々住んでいる板倉人以外の人口も増えてきた感じがする。顔を見ただけではわからない人が増加している気がする。

【中澤委員】

区内小学校の運動会等の会場内でも「板倉音頭」が流されていると聞く。現在、私は豊原小学校で役員をしている。実際に小学校の運動会で「板倉音頭」を流して児童が踊っているのかどうかと、児童に踊りを指導する人物は誰かについて、小学校に聞いてみたいと思う。小学生に踊りを指導する人物が分かれば、その人物に接触して、我々が現在テーマとして考えている主旨や思いを伝え、意見を聞いてみるのはどうだろう。小学校に確認し、指導者の人物名が判明した場合、その人物から、この地域振興部会に来てもらうなどの調整は誰が行うのか。

【千葉地域振興班長】

意見交換会の調整は地域協議会事務局で行う。

【中澤委員】

踊りの指導者と意見交換ができれば、さらに議論が進む。

【植木副会長】

意見交換の対象者を選定する必要があるが、指導者だけでなく、踊り手の皆さん（JAえちご上越女性部の皆さんなど）からも、オブザーバー参加でよいから一緒に話しを聞いてもらったらどうかと思う。

【山本委員】

これまでの部会の議論で、「神楽」や「どんど焼き」の復活についての意見が出されたが、地域振興部会としては、今後「板倉音頭を中心とした地域振興」の議論をさらに深めていくことでよいか。

【委員全員】

よい。

○ 第3回健康福祉部会（座長：釜田委員）

本日の部会で以下のとおり決定した。

1 活動の方向性

- ・ 高齢者施設の充実よりも健康づくりを優先。
- ・ 楽しく過ごせる環境づくりと交流を重視。

2 現状と課題

- ・ コロナ禍で活動が停滞し、交流の場が減少。
- ・ 高齢化に伴い、参加意欲が低下。情報提供が重要。

3 具体的な提案

- ・ 出前形式の小規模イベントを年2回程度開催。
- ・ 健康づくりや地域交流のための場「地域の茶の間」を活用。
- ・ 保健師や地域包括ケアが関わる形での健康体操などを検討。

4 参加促進の方法

- ・ 広報や災害無線を活用し、情報を積極的に発信。
- ・ アンケートを実施し、住民のニーズを把握。
- ・ 横のつながりを強化する工夫が必要。

5 対象者と方向性の検討

- ・ 健康づくりを既存の集まりに組み込む形が現実的。
- ・ 若い世代も対象に含める可能性を検討。

6 その他の提案

- ・ 仏教婦人会など地域活動と連携できる可能性を探る。

- ・ 小規模イベントの広報や参加促進に力を入れる。

○ 第3回地域防災部会（座長：秋山委員）

〈協議内容〉

第2回部会までの協議内容を再確認し、部会のテーマを決定する。

1 課題

- ・ 前回決めた「町内会の防災活動の温度差」は具体的ではないので、何が要因かを絞る。
- ・ 「防災訓練をやりたくてもできない」や「災害（地震・水害）の知識・怖さを知らない」などが理由と考えられるが、総合的に「防災意識が低い」ことが要因ではないか。

2 テーマ

- ・ 前回決めた「町内会の実態に沿った防災訓練」も具体的にしたほうがよい。
- ・ 災害時に公民館に集合し安否確認をすることになっている町内会もある。
- ・ 町内会それぞれの状況に応じた最低限のルールを作ることにしてはどうか。

3 本来あるべき姿または将来目指す姿

- ・ 前回決めた「逃げ遅れなし」でよい。

4 そのための方法

- ・ 地域協議会としてさまざまな機会を利用して町内会へ防災に対する意識啓発やルール作り等を提案してはどうか。

〈決定事項〉

1 板倉の課題

町内会によって防災意識の温度差がある

2 部会で取組むテーマ

災害に関する町内会ごとのルール作り

3 本来あるべき姿または将来目指す姿

災害時の逃げ遅れゼロ

4 そのための方法

- ① 防災イベントの実施と意識啓発の推進
- ② 町内会・民生委員・防災士の協力体制の構築（健康福祉部会と連携）
- ③ 町内会長連絡協議会への提案

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。